



# ～大規模自然災害への備え～

一般社団法人栃木県建設業協会

会長 谷 黒 克 守

はじめに、皆様のお蔭をもちまして、令和5年度定時総会を無事終了することができ、令和元年以来の4年ぶりの通常開催の総会となりましたことを厚くお礼申し上げます。また、表彰式につきましては、栄えある表彰を受けた方々に、心からお祝いを申し上げます。

さて、私たち建設業は、これまでも「地域の守り手・創り手」として、大規模自然災害、インフラの維持更新、地方再生・創生などに全力で対応して参りました。また、昨今においては、DXの推進、脱炭素社会の実現、働き方改革など新しい時代の潮流への対応に迫られております。

昨年は、一昨年を上回る国内最大規模の豚熱に対する防疫作業に、迅速かつ的確に対応することができ、地域の守り手という姿を県民の方々にあらためて知っていただくことができたと思っております。今年の3月には、初めての取り組みであった「とちぎ建設業合同企業説明会」が開催され、好評を博しました。これは、今後につながる明るい希望となる大きな成果であると考えております。

ところで、今年の9月には、関東大震災から100年となります。「天災は忘れた頃にやってくる」とよく言われますが、首都直下型地震に対しても、目をそらすことなく、対策を怠らないことが私たちにとって大変重要な使命であると考えます。12年前に現実のものとなった東日本大震災は、多くの教訓を私たちに残しました。大規模自然災害がどれほど人々の生活に深くつらい影響を与えるか、私たちは苦しみながら大切な経験を積みました。この経験を忘れてはならず、これから起きるであろう自然災害時に全力で生かしていかなければなりません。災害の発生前にできること、災害の発生時にできること、災害の発生後にできること、そして被害を最小限に抑えるための努力を惜しんではならないと強く思っております。

私たち建設業が課せられた社会的使命を十分に果たしていくためには、健全で安定した経営が不可欠であり、今後も国や県に対して、公共事業予算の持続的な確保、とりわけ国土強靱化に向けた予算がしっかりと確保されるよう強く要望して参ります。これからも建設業が、「地域の創り手・守り手」として地域から信頼され、地域から愛され、地域に存続していくよう、災害対応はもちろんのこと社会資本整備やその維持管理にもしっかりと取り組んでいく決意であります。

最後に、会員皆様の日頃の鍛錬と力の結集が、今後生じるであろう自然災害等の的確な対応へとつながることから、日頃から準備等に怠りなきよう改めてよろしく願いいたします。そして、働き方改革、DXの推進など、生産性向上等にも積極的に対応するとともに、建設業の役割への理解促進を図る広報活動にも取り組みながら、新しい担い手となる若者が魅力を感じる建設業へと積極的に進化を遂げて参りたいと考えております。引き続き、会員相互の連携により、建設業が、県民の皆様の安全で活力に満ちた生活を実現する「地域の守り手」や「地域の創り手」としての社会的地位をしっかりと定着させていくために、皆様に有益な事業展開を図って参りますので、引き続きご支援、ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。